

■期間／9月10日(月)～16日(日)

アジアの文化交流都市を目指して、アジアの学術・芸術・文化に貢献した人々に贈る「福岡アジア文化賞」。
受賞者4人をお招きし、授賞式や市民フォーラム、学校訪問、文化サロンを通して、
アジアの固有で多様な文化の価値を市民と分かち合い、未来へつなげるアジアの文化交流を行った。



授賞式

9月13日(木) 18:20～20:00

司会：ジュディ・オング／福岡国際会議場

秋篠宮同妃両殿下御臨席のもと、市民や各国、各界関係者など約千人が参加した授賞式。博多織で装幀された賞状と、福岡市の夏の花、芙蓉をモチーフにしたメダルが贈賞された後、受賞者は喜びと市民へのメッセージをスピーチ。市民代表の針塚瑞樹さんの祝福の言葉、福岡インターナショナルスクールの子供達の花束が贈られ、会場は盛大な拍手に包まれた。司会のジュディ・オングさんと受賞者の対談では、市民から寄せられた質問や福岡の印象などについてトークを繰り広げた。対談後は、芸術・文化賞を受賞したマルチアさん率いるスロカルト王家舞踊家の特別パフォーマンスが行われ、華やかな宮廷舞踊で受賞者たちを祝い、幕を閉じた。



学校訪問



各受賞者は、福岡市内の小学校・高校を訪問。シヴァ氏は環境哲学、チャーンウィット氏は歴史をテーマに講演し、生徒達にエールを送った。タヒミック氏はインスタレーションや映像、マルチア氏は、自国の音楽や踊りを通して、生徒達と文化交流を楽しんだ。



福岡アジア美術館 における インスタレーション

受賞者タヒミック氏の作品を7F彫刻ラウンジにて約2週間(9/15～27)展示した。



市民フォーラム

大賞 ヴァンダナ・シヴァ

インド／環境哲学 環境哲学者
(科学・技術・エコロジー研究財団理事長)

大地の民主主義(アース・デモクラシー) ～未来へと続く正義と平和の文化を育む～

9月11日(火) 18:30～20:30／アクロス福岡地下2F イベントホール



自然を慈しみ、生命の尊厳を守る斬新な思想を語り、多くの民衆を導いてきたインドの環境哲学者。とくに、貧しい人々や女性の視点に立って、開発やグローバリゼーションのもたらす矛盾を鋭く指摘してきた。シヴァ氏は、アジアの女性知識人として、地球と人類への多大な貢献を成している。

私たちはいま、生命に関わる危機に直面している。資源を消費しごみを出す、これまでの成長モデルの限界に気づくべきだ。20年前、私が参加した国際会議で企業が生命(種子)に所有権があると主張した。その後、企業は民主的な過程を経ずに自らの都合でつくったルールで世界の種子を支配し、地球の生態学的な危機を招いた。私はこれに対し「ナヴダニヤ」という組織を立ち上げ、種子を保存する運動を行っている。そして世界には新しい経済を構築する動きも始まっている。企業の支配から脱却し、種子や生態系、地球全体を考える経済、分かち合いの文化へ転換することが必要だ。「アース・デモクラシー」を地球規模で展開すれば、より良いアジアを取り戻すことができると私は信じている。

芸術・文化賞 キドラット・タヒミック

フィリピン／映画 映画作家・インスタレーション
パフォーマンスアーティスト・文化観察者

キドラット・タヒミックの映画＝宇宙 ～アジア・インディペンデント映画のバイオニア～

9月16日(日) 13:30～18:30／エルガラ大ホール



アジアの個人映画作家の先駆的存在として、世界の映画文化に大きな貢献を果たしてきた。監督のみならず脚本・撮影・編集・出演までの一切を自身で担当し、途上国フィリピンに生きる者の矜持と文化帝国主義批判を独特のユーモアに包んで描く作品群は、国際的に高く評価されている。

『悪夢の香り』鑑賞後に行われた東京国際映画祭アジア部門ディレクター石坂健治氏との対談。石坂氏に「ミスター・タイフーン」と呼ばれたタヒミック氏は、純粋なエネルギーとしての台風を、フィリピン人を覚醒するエネルギーとして映画の中で使っている。タヒミックさん曰く「アメリカを崇拝する文化や映画がどんどん入り、フィリピンの精神構造や価値観が失われるのではないかと心配になり、『悪夢の香り』を制作した。他の文化の方程式を真似るのは止めようという覚悟のための映画である。」他に『虹のアルバム 僕は怒れる黄色'94』と、製作進行中の最新作『マゼラン』を上映。インスタレーション、パフォーマンスもあり、内容盛りだくさんで笑いに包まれ終了した。

タヒミック監督作品の『月でヨーヨー』『トゥレンバ祭り』がアジアフォーカス・福岡国際映画祭で特別上映された。



●月でヨーヨー

●トゥレンバ祭り

学術研究賞 チャーンウィット・カセートシリ

タイ／政治学・歴史学 歴史学者
(タマサート大学教養学部東南アジア研究プログラム上級顧問)

国際都市アユタヤをめぐる海域交流 ～日本からアラビアまで～

9月14日(金) 18:30～20:30／アクロス福岡地下2F イベントホール



タイおよび東南アジアを代表する歴史学者。氏はタイの歴史とりわけアユタヤ史の研究において傑出した業績をあげたほか、タイ近現代史の研究にも大きな成果をあげ、それらの成果を教育に取り入れ、活発な啓蒙活動を行い、国際的に高く評価されている。

タイの首都バンコクの北部にある古代都市アユタヤは、農業・貿易・防衛に有利な地理的条件に恵まれ、当時の東南アジアの中で最も豊かな王国を築いた。「東洋のベニス」と謳われたアユタヤは、15世紀前半には重要な国際的港市として世界に知られ、森林産物の輸出をはじめ、いろんな外国船が行き来するまで繁栄した。アユタヤと最初に貿易を始めた日本人は琉球人であり、沖縄の泡盛はタイから輸入された米と酒から発展したもの。その後、日本との貿易が発達になり、やがてアユタヤに日本人町が形成された。アユタヤに移住した日本人の中で、山田長政は最も有名な一人で、日本人町跡にはいまでも彼の銅像が立っている。

芸術・文化賞 クス・ムルティア・パク・ブウォノ

インドネシア／舞踊 宮廷舞踊家
インドネシア王家教育文化財団代表、スロカルト王家文書局長

ジャワ・スロカルト王家のガムランと舞踊 ～伝統の源から世界に向けて～

9月15日(土) 13:30～15:30／アクロス福岡地下2F イベントホール



中部ジャワのマタラム王家に伝承されてきた宮廷舞踊の継承者である。氏は幼少よりジャワ文化を深く学び、300年に及ぶ伝統的宮廷舞踊を広く世に紹介するとともに、中部ジャワ伝統文化の保存と発展のための努力を続け、舞踊家として国際的にも高く評価されている。

筑紫女学園大学准教授の田村史子氏による企画・進行。中部ジャワの古都ソロに古くから伝わる伝統音楽ガムランと宮廷舞踊の公演。第1部はガムランのゆったりとしたリズムの中での女性舞踊家による優雅な舞踊、第2部では、ムルティア氏の解説や実演とともに、ダイナミックな男性舞踊が披露された。田村氏曰く「人間はなぜ音楽を持っているのか。言葉を持つ以前から人間は歌ったり踊ったりしてきた。民族はそれぞれ違う音楽や踊りを持っているが、その根源は一つであり、その長い歴史が音の中に表現されている。ガムランは生きている伝統であり、常に新しい要素が加わりながら進歩し続けている。」

アジアマンスのオープニングセレモニーとして、ムルティア氏によるインドネシア宮廷舞踊とガムラン音楽が披露された。



アジア文化サロン

各受賞者と福岡の人達とのネットワークづくりを目指すアジア文化サロン。シヴァ氏は九州大学でインド研究者やアジア女性

交流研究者と、チャーンウィット氏は福岡市立博物館で東南アジア研究者と、タヒミック氏は福岡アジア美術館で映像・美術に興味を持つ市民と、ムルティア氏は九州国立博物館でガムラン演奏グループ・市民らとそれぞれに交流を深めた。

